

卒業生によるボランティア活動グループわ 会報

情報ギャラリー

第27号

情報ギャラリー第27号

発行日 2004年7月23日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 赤司 松美
 発行元 NPO法人社会還元センター
 グループわ
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール group-wa@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

NPO グループわ の初仕事 こうべ環境未来館の管理運営

6月に開館したこうべ環境未来館の管理運営はNPO グループわ の初仕事です。その開館前後から現在までの状況など、管理責任者の田波久紀夫さんにレポートして頂きました。

神戸市は空き缶、空きビン、ペットボトルの選別・圧縮を行う施設として「神戸市資源リサイクルセンター」を西区の神戸複合産業団地内に開設し、6月1日に稼働しました。

これに付属している環境教育の拠点施設が「こうべ環境未来館」で、センターと同時にオープンしました。

竣工式には市長以下関係者と招待された市民の約200名が参加し、招待された木津小学校4年生85名が初来館の見学者となりました。

「こうべ環境未来館」という名称は応募32点の中から須磨区の主婦の作品が選ばれ、管理運営は神戸市の審査の結果、NPO法人社会還元センターグループわが初仕事として委託を受けました。

正副責任者とコーディネーター(案内役)20名がローテーションを組んで、一日2名が常駐して、見学者の案内、団体見学申込の受付、建物の管理などの運営業務、環境学習講座の企画運営業務、KOBECODOMOエコクラブ事業の業務、再生家具、自転車の展示・提供業務などを担当しています。

事前の準備も時間が足りず、すべてが始めてのことは

かりで、ぶっつけ本番、不安一杯のスタートでした。失敗は絶対に許されないお客様相手の仕事ですから、全員が緊張の連続でした。

コーディネーターの方々の案内用ガイドブックは市・環境局で作っていただきましたが、充分ではないので、個人個人が各自で研修して、プラスアルファの説明内容を考え、種々の質問にどれだけ答えられるかが勝負でした。

開館以前から自主研修として、何回も案内の練習をするために、こられた方もありました。

開館後も案内者に同行して案内の仕方を勉強する人、自分だけのガイドブックを作られた方など、それぞれの方が、見学者に十分理解してもらえるように工夫されていました。

見学案内の中で、我々の考案した「ゴミ分別回収ゲーム」は小学生と先生には好評でした。家庭で出しているものと同じようなゴミを「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「リサイクルするゴミ」「店頭回収するゴミ」「荒ゴミ」「粗大ゴミ」に分別するゲームで、生徒には実際に分別作業をしてもらいました。ゲーム終了後、分別したものが正



しいか間違っているかを皆で討議して、分別の仕方・ゴミの出し方のルールを理解してもらおうゲームで、実際に作業したことで理解が得られたと思います。

婦人会等の団体で来られた方々も興味を示され、中には難しい質問(縫い針はどの区分に該当するのか)をされて、市の担当者でも返答に困ることもありました。

今は、各人が何回か案内の経験をされたので、自信を持って説明されていますが、見学者の多いときは各見学場所での時間配分には気を使っておられると思います。

KOBECODOMOエコクラブの事務や再生品(家具、自転車)の展示・提供業務もかなりの作業量があり、慣れるまではかなり時間が掛かりそうです。

環境学習講座は主に企画運営事業部の責任者・中島洋介さんが行っています。

今、未来館の敷地内をL型に池を作り、市民の皆さんと一緒に手作りでピオトープを

整備しているところで、8月末には出来上がる予定です。

月に1回程度はいろいろな講座がありますので、興味のある方はぜひ参加して下さい。パソコンのホームページ「こうべ環境未来館」で検索して頂ければ、最新情報がすべて掲載されています。

皆さん、ぜひ一度ご来館下さい。5名程度なら特に予約は要りませんが、確実に見学案内をご希望なら電話で予約してください。

(電話 995-3196)

開館時間は9時から17時で、水曜日は休館です。見学時間は1.5時間程度ですが、土、日は工場が休業ですので、工場の見学はできません。当館には自動販売機はありません。付近には飲食店もありません。各自、食べ物、飲み物を用意してご来館ください。予約いただければ、昼食場所は提供いたします。会議、打合せ等のできる会議室も用意しています。神鉄木津駅からは徒歩5分程度です。(園6-環 田波 久紀夫)



副理事長 納利春生(7)
理事 井上堅福(8)
理事 三宅慶忠(国8)
事務局長 堀内昭食(6)
事務局次長 江本和嘉子(食7)
事務局次長 小林将悟(生8)
財務担当 岡村健一朗(園7)
広報部会長 朝日照夫(国6)
福祉部会長 葦原耐子(福6)
国際部会長 鐘築重治(国7)
環境部会長 松本義彦(生6)
文化部会長 芝野公男(国6)
いきがい部会長 竹内敏裕(生5)

2004年度定期総会 7年目の脱皮 NPO グループわとして 新たなスタート

神戸市社会還元センター、愛称グループ“わ”の第6回定期大会は2004年5月5日17日(月)午前10時からシルバーカレッジホールで門脇 淳子さん(福2)の司会で開会された。赤司 松美委員長(生6)の開会挨拶の後、来賓代表として神戸市民福祉振興協会の中本 正信専務理事から挨拶の言葉を頂いた。

来賓としてほかに神戸市保健福祉局高齢福祉部長 平田修三氏、神戸市社会福祉協議会福祉活動部長 小池 裕氏、須磨区ボランティアセンター所長 辻井 勝弘氏、中央区ボランティアセンター所長 松山順三氏、神戸市シルバーカレッジ事務局長 米谷 幸次郎氏の方々の臨席があった。

議長には久保 雅一さん(国5)が、書記には谷田部 宏さん(生6)が選ばれ、久保議長より、当日現在の会員総数920名、総会出席者201名、委任状355名で、総会

は有効に成立している旨の報告があった。

一号議案の平成15年度事業報告を赤司委員長が行い、二号議案の平成15年度決算報告および監査報告では、決算報告を黒田宏副委員長(国6)が、監査報告を豊村 栄一監査役(福4)が行ない、数件の質疑応答の後、一号議案、二号議案の一括採決の結果、挙手多数で承認された。

三号議案は神戸市シルバーカレッジ社会還元センターの解散と特定非営利活動法人社会還元センター グループわへの移行を諮るもので、赤司委員長の提案を挙手多数で承認した。これにより任意団体のグループ“わ”は1997年7月22日の設立から6年10ヶ月で発展的に解消し、NPO法人グループわに生まれ変わった。

引き続き同じ司会者、議長、書記の元で午前11時15分から特定非営利活動法人



第6回定期総会審議に先立ち挨拶される中本専務理事

社会還元センター グループわの第1回定期総会に入り、赤司初代理事長の挨拶、来賓の神戸市保健福祉局高齢福祉部の平田 修三部長の挨拶の後、議案の審議に入り、一号議案の平成16年度役員選任では新役員候補が正面に整列した上で、満場の拍手により承認を受けた。赤司理事長が役員を代表して「新しいNPO法人わを、誠意と熱意を持って運営する」旨の決意表明があった。

二号議案：平成16年度事業計画、三号議案：平成16年度事業予算も挙手多数で承認され、主要議案すべての審議が終って、議長、書記が解任された。最後に先期をもって退任した役員に赤司理事長

からお礼の挨拶があった。

12時、堀内 昭事務局長(食6)が閉会を宣言して総会第2部を終了した。

続いて第3部の体験発表に移り、福祉部会長の葦原 耐子さんが「福祉部会にかかわって」、国際部会の相馬 博さん(国7)が「外国人の茶道体験を通訳して」と題するそれぞれの体験を話した。

第4部は文化部による発表会で、9グループが8演目の妙技、名演を1時間半にわたって披露した。





西区会長 松岡泰彦(園7)
 垂水区会長 左石田純一(園7)
 須磨区会長 西村秀美(生2)
 長田区会長 北田正文(食7)
 北区会長 淡路忠義(福5)
 兵庫区会長 竹田昭一(生6)
 中央区会長 杉野好一(生5)
 灘区会長 福田望国(8)
 東灘区会長 白岩信義(園7)
 理事長 赤司松美(生6)
 副理事長 黒田宏国(6)

新任理事として 就任挨拶 法人としての発展を 目指して

理事長 赤司 松美(生6)

この度、5月の総会においてグループわは任意団体から特定非営利活動法人として、決意も新たに更なる発展を目指して出発いたしました。

この大事なときに理事長の大役を拝命しその責任の重さに身の引き締まる思いがしております。今後多様化する業務及び活動に対応可能な本部体制の強化を目指し、法人格取得に努力戴いた旧役員に加え新進気鋭の7期生、8期生の新役員を迎えた新しい本部陣容で決意も新たにグループわの発展になお一層、下記努力をしていく所存です。

1. 現在までの活動を継承し、その活動を更に活性化することを基本方針として諸問題の解決に当たり更なる発展を目指し努力致します。

グループわの設立以来、現在まで嘗々と築いてきた諸先

輩達の活動実績に感謝し、その実績を大事にし、その活動を継承し更に発展するように、将来を目指してその方向を見失うことのないように、役員一同心を合わせ堅実な運営を心がけ、事に当たっては誠実に努力したいと思っております。

2. 新規活動の発掘、委託事業、助成金獲得に積極的に取り組み努力いたします。

責任ある法人として内外の期待に応えグループわの潜在能力を生かした委託事業と助成金の獲得を重要課題として推進し経済基盤の確立と活動の活性化に努力致します。

3. 会員の皆さんが「グループわの会員で良かった」と実感の持てる「わ」にできればとの思いで一杯です。理事会、運営委員会の協力を得ながら、皆さんの知恵を生かし、皆さんと共に新しい発展を目指し努力してまいります。

本部役員一同、発展の為になお一層の努力を惜しみません。グループわの益々の発展を祈念すると共に、皆様の叱咤激励を心からお願い致します。

3年目を迎えて

副理事長 黒田 宏(園6)

何も判らないままグループわの世界に飛び込んでから早2年と3ヶ月が過ぎようとしている。その間グループわは年会費の徴収、NPO法人格の取得と大きく変革した。

卒業と同時に同じコースの多くの人が「わ」に加入したが「何をして良いのか、何をすべきか判らない」と言う理由で多くの人が去って行った。私は赤司理事長と同じように、我々がしなければならぬことは、会員の皆さんが有する優れた知識と経験を埋もれさすことなく、十分活用できる場を提供することだと考えている。そしてグループわの更なる発展のために、会員の皆様と一緒に努めたいと思います。

積み重ねを大切に

副理事長 納 利春(生7)

今回NPO法人社会還元センターグループわの幹事一人として皆様から承認いただきました。

グループわがことしNPO法人格を取得し同時にこうべ環境未来館の管理および諸行事主催を神戸市から委託されたことは大きな飛躍の年と言えます。

社会的責任も重くなることでしょうが、順調に発展されることを祈ると共にそれを果たしていくことが、私共の責務と考えております。

数学で言えばプラス(+) マイナス(-)のどちらに向かうかは紙一重のところにあります。小さなことの積み重ねをおろそかにしないようにしていきます。

私としましては何も知らぬまま今飛び込んだところです。グループわとそして自分自身をしばらく見つめていきます。よろしくご指導の程お願い致します。

気負わず、気配りを

理事 井上 堅(副8)

カレッジ卒業を前に、建学の精神「再び学んで、他のために」をどう具体化するべきか考えていたとき、
(次ページに続く)

(前ページから続く)

社会還元センターわ から話があった。代表の赤司氏にお会いした。赤司氏のNPO法人わのボランティア活動への熱い思いに惹かれ、わ本部への参加を決めました。

国際化・高齢化・個別化の社会の中にあって、これからのわの活動は地域に目を向け、地域と一緒に考えて活動する組織として、その重要性が増してくると考えます。気負わず、気配りのできる存在、縁の下の支えとして頑張っていきたいと考えています。よろしくをお願いします。

社会還元の場を求めて

理事 三宅 慶忠(国8)

「ふたたび学んで、他のために」の開学理念は、折に触れて耳にし、また自らも口にします。だが、国際交流協力という視点で考える時、ともすれば語学ができる、できないで社会参加活動の中身を考慮勝ちです。残り少ない人生ながら幅広く社会還元の場を会員の皆様と求めていきたいと思ひます。

事務局に入り3年目

事務局長 堀内 昭(食6)

事務局のお世話をするようになり、3年目になりました。私もグループ“わ”については殆ど知りませんでした。が、カレッジ2年の時に学園祭の実行委員をしたときに初めて、グループ“わ”の存在を認識しました。そのような私が、卒業後に皆さんのボランティア活動のお手伝いをするとは夢にも思いませんでした。今回NPO法人資格を取得後も引き続き、事務局で皆さんのボランティア活動のお世話をするようになりました。これからも新しい活動場

所の紹介をしたり、皆さんの活躍振りをホームページ、冊子「活動紹介」、市当局への報告等でPRしていきたいと考えております。会員の皆さんのご協力をお願いします。

大役に驚きと感謝

事務局次長 江本 和嘉子(食6)

昨春カレッジ卒業と同時に“わ”の本部に入閣(?)し、僅かでもお役に立ちたいと願っておりました。このたび「理事」という大役を戴き、驚きと感謝の複雑な気持ちでいっぱいです。未熟者の私ですが、赤司理事長はじめ本部役員、運営委員、グループわの皆様のご指導ご協力をいただき、グループわの発展に努力いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

役立ちたい気持ち

事務局次長 小林 将悟(生8)

3年間生活環境を学んで、諸先生をはじめ先輩方のお陰により、その輪郭をおぼろげに感じる事ができたように思います。学びはまだ必要ではありますが次はこれを世の為、ひとの為に如何にお役に立てられるか微力であっても誠心誠意取り組みます。

人は「他の為に役立ちたい」という気持ちを皆持っています。

本当に役立っていることを自ら自覚したときに、ささやかな喜びと達成感を得ます。これが次のステップへのハネ、原動力となります。このサイクルが最重要ではないでしょうか?

NPO法人グループわの使命もここにあると思ひます。

数字好きを生かして

財務担当 岡村 健二郎(園7)

昨年に引き続き役員の端く

助成金情報

6月までに決定した助成金決定事業は下記の通りです。

財団法人長寿社会開発センターより「高齢者による外国人と日本人の親子交流事業」に¥1,613,000の助成金が決定しました。

外国人の親子と日本の親子を対象に昔あそび、自然体験塾、日本料理教室等によるふれあい交流によってお互いの文化、お互いの国の事を理解し合うイベントを開催予定で関係部会で協議を開始したところであります。

財団法人ひょうご環境創造協会より「ケナフ栽培とその効果的な利用」の活動に対し¥100,000が決定しました。ケナフの栽培はもとより「ケナフ紙すき」を通し、ケナフの利用及び地球温暖化を学ぶ環境啓発活動を展開する予定であります。

生活復興県民ネットより、地域活動推進講座助成金として¥90,000が決定し「音楽セラピー講座」を開催予定であります。

その他、審査済みの助成金申請のもの1件、年内に数件を申請予定で情報収集に努力中であります。(本部 赤司 松美)

FFPギャラリー

フルーツフラワーパークでは同パーク内のギャラリーを一般に開放することになり、そのコケラ落しとしてグループわ会員の作品展示を予定しています。絵画、写真、陶芸など出展ご希望の方は、グループわ事務局までお問合せください。(743-8101)

音楽セラピー講座

前回好評だった音楽セラピーの第2回講座が9月6日から同13日、21日と3日間に亘って開かれます。詳しい応募要領など、別刷りのチラシを同封してますので、ご覧の上お申込みください。

れで財務を担当しています。

サラリーマン時代、経理を担当したわけではありませんが、もともと「数字好き人間」、定年後小さな会社で総務、人事、経理など事務部門全般を見ていたことがあり、そのことが今少しは役に立っているのかなと思ひています。

NPOへの変身という時期に遭遇して、新しい勉強もさせていただきました。およはずながら今後も頑張りますのでよろしくご支援ください。

叱咤激励ください

広報部長 朝日 照夫(国6)

グループわの会報制作に関わるようになって早くも満2年が過ぎました。グループわがNPO法人として社会的な存在になった現在、広報の役割はますます重要になったと思ひますが、生来の怠け者の私にはほかの皆さま方のように果敢に動くことができません。皆さまの叱咤激励が私の原動力です。どうぞよろしくお願ひします。

フルーツフラワーパークとの 本年度のタイアップ事業

昨年はパーク開園10周年記念事業として実施された「スロースポーツ大会 at KOBE 2003」イベントのパネルディスカッション、男性料理教室、

ニュースポーツ、昔あそび等、グループ"わ"として支援参加いたしました。

本年度は1年間を通したフルーツフラワーパークイベントにグループわとし

て積極的な参加要請を受け、下記イベントに支援参加することになりました。詳細は今後の打ち合わせで詰めることといたします。関係グループには本部より協力打診致しますのでよろしくお願いいたします。

期 日	イベント内容	グループわ参加内容
7月4日(日)	七夕まつり(終了、下記参照)	おりがみ、紙芝居
8月6日(金) ~ 8月7日(土)	夏休み親子大沢・FFP探検隊	木、竹のおもちゃ作り スターウォッチング スタンプラリー、昆虫採集
8月27日(金)	真夏のファンタジーナイト	ハワイアングループ
10月10日(日)	スロースポーツ大会	ニュースポーツ
10月18日(月) ~ 2週間	FFPギャラリー (出展募集中、P4参照)	会員の絵画、陶芸、書道、 写真などの作品の展示
10月31日(日)	スロースポーツ体験ウイーク	昔あそび



折り紙グループは、次々とやってくる親子づれへ、笹かざりにつける折り紙や切り紙を教えるのに大忙し、大盛況でした。笹の枝のプレゼントもあり、お願いごとや、出来上がった折り紙を下げて、満足そうに帰っていく顔、顔...
「家族みんな健康ですごせませうように」「バレーがうまく

なりますように」「タイガースの選手になれるように」、あきらかに「ピパの字で」「宝くじが当たりますように」。

一番記憶に残った短冊は、「振り向くな、振り向くな、後には夢がない」

「世界中が平和になりますように」

(事務局 飯井 冴子)

フルーツフラワーパーク 七夕イベントに参加

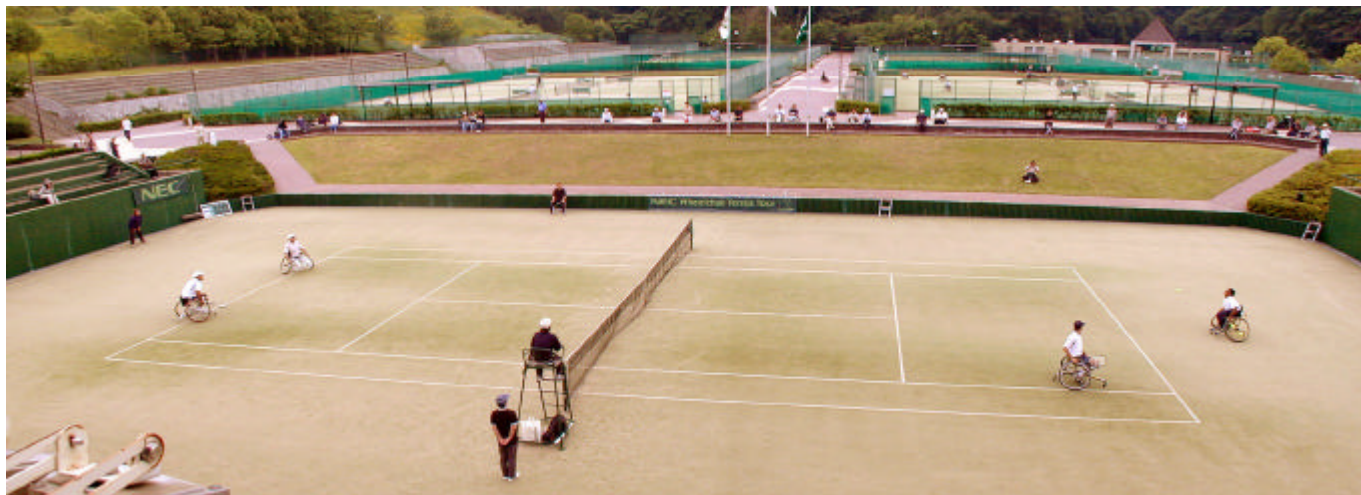
紙芝居グループと折り紙グループ

7月4日(日)の七夕イベントに紙芝居グループと折り紙グループが参加しました。

空模様が案じられましたが、幸い傘いらずの天気となり、まずはホッ。紙芝居グループは、午前11時から3時

まで、1時間ごとに20分程度の公演を行いました。その都度、子どもたちがたくさん集まってくれました。七夕にちなんだ紙芝居を色々と持参して、七夕の歌を歌いながらの熱演でした。





男子W決勝戦、齋田・ホール組(左)対アマラン・ミストリー組(右)

国際車いすテニストーナメント KOBEOPEN 2004

わとカレッジ学生が支援活動

国5-国 久保 雅一

1993年の初回開催から11回目を迎える今年度の神戸大会は5月18日から5月23日までの6日間、しあわせの村のテニスコートと神戸市総合運動公園の2ヶ所で行われました。

参加選手は総数170人(内海外選手は21人)、ボランティア総数335人(内グループわからはカレッジ在学有志33名も加えて83名、延べ人日では179人日)、大会運営役員53人でした。

車いすテニスは通常のテニスコートを使い、2バウンドまでに返球します。健常者プレーヤーは前後左右に動いて返球をしますが、車いすは前後しか動けないので、左右に動くときは両側の車輪を操って車いすの向きを変え前進して返球します。方向転換の際の遠心力で車いすが転倒する



サーブの瞬間

のを抑えるため、車輪はハの字形にレーキ(傾斜)をつけた競技専用車でプレーをします。

参加選手の荷物は通常使用の車いす、競技用車、ラケットセットと身の回り荷物の4個となります。このために移動するときは介助が必要になります。国内選手は介助者が同伴していますが海外選手はほとんどの方が1人で移動しているので、送迎、移動のために我々ボランティアの介助が必要になります。会場では食事、飲み物、補食(バナナ)等の手渡し、仮設テントの設営、交通整理、宿舎でのよろず案内などのボランティアをしました。以上に対して7月13日に国際車いすテニストーナメント実行委員会の滑川良雄委員長名でグループわに感謝状が授与されました。(右下写真)

今回の大会では大会運営役員の重鎮であり、阪神大震災で両足を切断された肉体的ハンディと精神的重荷を乗り越えて選手としても出場した神戸市在住の沖賢次さんの姿に触れて、私はボランティア



テントを立てて飲物・弁当を配って...のサービス



表彰式。男子S優勝のアマラン選手のスピーチを通訳する園芸6期の岩崎さん。

としての勤めをするだけでなく、生きる力を頂きましたことに感謝しています。2005年4月に第12回神戸大会が予定されています。この大会にグループわとして参加をするべく準備に入りました。



広陵小学校課外スポーツ活動

グラウンドゴルフへの協力

== K S C 広陵同窓会からのレポ ==
福8-北 坂東 康男



ルールの説明を受ける子どもたち

広陵小学校低学年の1学期課外スポーツ活動として「グラウンドゴルフ」を昨年(3回)から神戸市シルバーカレッジ(KSC)広陵同窓会がサポートして実施しています。ことしも3回計画され、その第1回目を6月19日(土)、16名がボランティアとして参加し実施しました。

当日は晴天のもと、1、2、3年生70数名に、2時間、グラウンドゴルフを楽しんでもらいました。

組分けは先生方が担当し、4から5名を一組として8組を作り、前半組、後半組の2回に分けてそれぞれ1ラウンド、8ホールで実施しました。

私達はまず8組分のクラブ、ボールの準備、8ホールの設営後、ペアを組んで8組に分かれて競技の指導、進行、スコア付けを担当しました。

経験済みの子から初めて子、おとなしい子から元気一杯の子、上手な子からへたな子、スコアに無頓着な

子から気にする子、男の子、女の子、各学年入り混じってのプレイです。

怪我のないように大声で注意しながら、子供達に合った助言や一緒にクラブを振っての指導で汗をかきかきまわりました。結構疲れましたが子供達が元気に楽しくプレイしてくれ、満たされた気持ちになりました。二人がホールインワンを取り、昨年に比べると経験した子供達も多くなり、全体としてレベルが上がってきているように思います。

グラウンドゴルフは高齢者用に考えられたスポーツですが、比較的安全で、ルールも簡単で小学生低学年にも適しているのではないのでしょうか。

核家族化が進み、日ごろおじいちゃん、おばあちゃんとの交流が少ない子ども達にとっては、おっかないようでやさしいおじいちゃん、おばあちゃんと交流でき、有意義だったと思います。離れて住んでいる孫達

にもその地域でこのような交流が持たれるといいなと思いました。お母さんたちは何人か来られていましたが、お父さんは来られていたかよくわかりません。これが現状だと思います。お父さんも参加され、3世代交流まで進むと地域社会の交流も深まり、安心して安全な街づくりの基礎ができるのではないかと思います。「グラウンドゴルフ」以外にも広陵小学校低学年の3学期課外活動として「昔あそび」をことし2、3月に4回、KSC広陵同窓会がサポートして実施されています。

KSC広陵同窓会は北区

広陵町、筑紫が丘、小倉台の3地区在住の1期生から11期生までの97名(男性:79、女性:18、会長:塩田義人(1期生))で構成されています。会員同士の親睦や小学校、自治会、老人会、街づくり協議会等の地域行事への協力も行っています。また多くの会員が地域の組織団体で主要な役職について活動をしています。

同窓会が積極的に地域社会と係わって、KSCの建学精神「再び学んで、他のために」を「地域社会への還元」の形で実践できればいいなと思っています。



プレイ中の子どもたち

北区会員の皆さんにお願い

北区にはご存知のように会員がたくさんおられ、それぞれの分野で活動されています。活動が個別なためか他区に比べて北区は何もしてないという声を聞くことがあります。そこで区会としての活性化を図るためぜひ運営に参加いただき皆様の活力をお貸しください。ご意見・アドバイス等どんなことでも構いません、どしどしお聞かせください。

北区世話人一同 区会長 淡路 忠義 T&F 592-8448

現在している活動:(しあわせの村内)

ワークホーム明友 軽度身障者対象

パソコン指導 月1回(第3水曜日)

神港園 軽度痴呆性老人対象

入浴後の介助 毎週火曜日(第3は他のグループ)

東灘区会の活動レポ

ふれあい喫茶、歌の友愛訪問

国7-東 白岩 信義



マスター1人、ママ多数のふれあい喫茶“のより”



「これから音頭」で体も心も動かして体操

の話し相手になり、和気あい
あいで努めております。(写
真左)

また従来から続けているサン
ライフ魚崎での歌の友愛訪
問での最後の曲目に大泉逸郎
の「これから音頭」を歌い、
それに振りをつけ踊り？体

操？まがいのことで身体を動
かし、楽しんでおります。
(写真右) 今後の予定です
が、10月に東灘区会として
こうべ環境未来館の見学会を
計画しております(下記参
照)。幹事で事前見学会を予
定しております。

4月よりロングステージ
KOBÉ岡本のふれあい喫茶
“のより”に毎月日曜日のう
ち2回、6～7人で支援を始

めました。
毎回20人を超えるゲスト
(特養入居者)を迎え、喫茶
のサービスとともにゲストと

わ 東灘区会 こうべ環境未来館見学会

実施日:平成16年10月19日(火)

集合時間:午前8時45分

集合場所:コープ神戸本部前(旧東灘区役所跡、現東灘区役所向い側)

会費:2,000円

昼食:昼食は各自持参(ただし、フラワーセンターに食堂あり)

行程:

集合 出発 <山麓バイパス経由> 神戸市資源リサイクルセンター/こうべ環境未来館
8:45 9:00 10:00~11:15

三木ホースランドパーク 兵庫県フラワーセンター 五百羅漢
11:45~12:45 13:00~15:00(昼食時間を含む) 15:15~15:45

<山陽・第2神明・阪神経由> 帰着
17:00(予定)

記載の各通過地・観光地の時間は目安の時間です。ルート・交通事情、気象条件等によりスケジュール・時間に変更になる場合があります。予めご了承ください。

S C 垂水会の活動報告

名谷ふれまち七夕まつり

生 8-垂 辻村 充夫



稚魚の入ったバケツを持って...

7月4日に名谷ふれあいのまちづくり協議会主催で行われた第3回「名谷ふれまち七夕祭り」が開催された。

名谷あじさい公園の周囲には高さ7メートル以上の大きな七夕飾り25本に、思い

いの願いを込めた色とりどりの短冊が婦人会・老人会の手で飾られていた。

野菜市、模擬店、フリーマーケット、木工細工、人形劇、紙芝居、ブラスバンド演奏などのイベントが賑やかに

繰り広げられた。

七夕祭りのイベントの一環として1時過ぎより「魚の放流」があり、その手伝いに垂水会5人で参加した。

周辺の子供100人の子でメダカ2000匹、ドジョウ500匹を約30分かけて放流した。「動物の命の大切さ」、「汚染のない川」、「ホタルが飛ぶ川」を願ってくれたであろう。

なお、神戸淡路鳴門自動車道の垂水ジャンクションの東下に名谷町がある。第二神明道路に抜ける高速道路の下に「あじさい公園」があるが、そこに福田川が流れている。垂水会では毎月第二木曜日(当日雨の場合は次週)に「福田川クリーン作戦」として毎回10人以上のメンバーが、「福田川プロムナード」の両側の清掃を行っている。



無事に育つての願いを込めて川に放つ

「震災10年神戸からの発信」記念誌発行のこと

カレッジ情報誌編集部

10年前、カレッジ発足から1年たらずの1月、あの地震がおきました。カレッジは物資集積所となり、学生はボランティアに精を出しました。

そのときの学生を含めカレッジの声は残っていないと思っていました。ありました。福祉、国際、生環各コース学生の貴重な文集が出てきました。10年たった今、その後の体験、行動を記録に残したいと思い「震災10年神戸からの発信・うたごえ大祭典」に際し記念誌を発行いたします。募集要領は下記のとおりです。

記

1. 題は自由ですが震災に関することです。
2. 応募資格 シルバーカレッジ過去、現在の教職員と学生。
3. 字数 1200字以内(コース、期、住所、氏名、連絡先明記のこと)
4. 原稿用紙またはフロッピーディスクで
5. 応募先 シルバーカレッジ情報誌編集部 投函箱または事務局気付情報誌編集部に郵送。
6. 締め切り 2004年10月20日到着
7. 選考委員会を設置し各賞を選び12月1日祭典時に表彰します。
選考委員は神戸新聞、サンテレビを含めお願い中です。
8. 応募作品を纏め記念誌として12月1日発刊します。
9. カンパを戴きました方にお礼として贈呈します。
10. 県、市役所、県内図書館などに寄贈します。

以上

体験手記

初めてのわ

国8-国 福田 望

ことしの3月シルバーカレッジ国際コースを無事卒業、本来なら不良学生だから留年または停学処分が相当だと認識していたのですが、心やさしい学園の方針でトコロテン式に押し出されることになり、楽しかった3年間の学び舎を去ることになりました。メダシ、メダシ!

ところが帰り道に関所があってわの綱に引っ掛かり、まあいいか、1年だけは冷やかしにもぐり込んで先輩たちがどんな活動をしているのか眺めてやれ...ぐ

らしいの思いで入会しました。当然国際部会を希望したらさっそく召集令状が入って、広帯域通信(インターネットや携帯電話)の国際会議のボランティアがあり、続いて車いすテニス神戸大会、日本透析医学会市民公開講座と初めての体験にしては出足が好調すぎ、その挙句グループわの灘区会長とドブプリわにはまり込んでただ今、WA-WAで頭痛状態です。でも先輩たちが素晴らしい?方ばかりで、私も甘えて結構楽しんでます。今後は好きなドリンクを少し控えめにし、何かお役に立てればと思ひ、頑張りますので皆さまよろしくお祈りします。

親子であつまれ 自然あそび塾(6)

昆虫をさがして 標本をつくろう

せみ とんぼ ちょうちん ばった ……

いろいろな昆虫をさがしてみよう
そして 標本づくりにも挑戦しよう
昆虫についてわからない事はなんでも聞いてね

指導 : 大谷 剛(人と自然の博物館)

●日	時	平成16年8月28日(土)	午前10時~午後3時
●場	所	しあわせの村 研修館	
●対	象	小学生と保護者	
●費	用	無料	
●定	員	25組	
●申し込み方法	ハガキかFAXで参加者全員の氏名、年齢、住所、電話番号を記入の上お申し込みください。		
	宛先	651-1102 神戸市北区しあわせの村 神戸市シルバーカレッジ 内 グループ わ「自然あそび塾」係 FAX 078-743-8103	
●締	め	切	り : 先着順

主催 NPO法人社会還元センターグループ わ
後援 財団法人長寿社会開発センター
お問い合わせ TEL 743-8101

掲 示 板

本部から

6月までは本部勤務は毎週火曜と金曜でしたが、多様化する活動とご要望に対応するため7月より月、水、木についても理事1名が必ず勤務する体制としました。曜日を気にせずお気軽にお立ち下さい。

事務局から

1. 電子メールアドレスの変更

現在使用している電子メールアドレス:

group-wa@portnet.ne.jp

が8月末で廃止になります(プロバイダーが廃業のため)。

新しい電子メールアドレスは、

group-wa@wa-net.jp

です。すでに登録設定済みですので今後の連絡は新しいアドレスでお願いします。

2. パソコン講座

一般市民高齢者対象パソコン講座を行います。

講座内容: デジカメの画像処理

受講料: 7000円(教材費含む)

日 程: 8月23日~

27日 5日間

時 間: 9時30分~

12時30分

申し込み: ハガキ、8月

9日消印まで

俳句の会に参加

しませんか

私たちはOBの仲間で作

句の会を作って月に1回集

まっています。また月1回

「ケアハウス松寿園」を友

愛訪問し、俳句をしていま

す。気楽に参加できる会

です、皆さんの参加をお待ち

しています。

俳友グループ連絡先:

金田 英夫 782-8052

鈴木 正美 592-7713

湯口 澄一 241-1348

ボランティア

佐野記念アットホーム(桃山台)でデイケア利用者へのリクリエーションのお手伝いとコーヒースービスのボランティアを募集しています。

活動日: 月~土(週1回でも月1回でもOK)

支 給: 交通費

連絡先: 岡田 京子

731-7628

震災写真の提供

在学生による「KSCう

たごえ大祭典」ではカレッ

4泊5日の

世界自然遺産・中国
最高の景観

黄山・杭州の旅

同封別刷りのチラシ
ご覧ください

ジ卒業生の震災体験手記を募集しています(P9)が、ほかに震災写真の提供についてもわの協力が求められています。会員皆様の積極的な応募をお待ちしています。

編集後記

熱帯夜が続くが、ある日若い人と寝付きの話になった。

「夜中に起きることない?」

「全然ないなあ、眼えつぶたら朝までぐっすりやなあ」

「夢なんか見いへんの?」

「夢も全然見んなあ」

「そうかも知れんなあ、もう夢もあらへんやろしなあ」

「…」軽い会話のつもりが、ケ

サっときて、返事に窮した。

夢を持つか持たないかが老け込むか、込まないかの分かれ目かなあ…。

部会、地区会の掲示板としてもどどん情・ぎやらを利用してください。

この欄を書くようになると編集作業も9分9厘終了だ。今回も多くの方に色々なお願いをしました。感謝。盛夏中どうぞ自愛を(サン)